

# 英語4技能 どう学ぶ？

受験シーズンが終わって卒業式を思いきや、すでに新学年の塾選びが始まっている。特に中高生の塾選びで様変わりしてきているのが、新しい大学入試で「読む・聞く・話す・書く」の4技能が問われる英語。外部検定対策か、スピーキング重視か、多読か……。塾説明会はどこも盛況だ。

## 「長文」増え塾は多読に力

2月の土曜日。都心にある進学塾の新中1向けの説明会は、新しい大学入試共通テストの解説から始まった。「英語は4技能が問われます」「今の中3から外部検定と大学入試センターの試験の併用だ」「2月下旬の学年からは全て外部検定になる可能性も……」。

## 広がるネット学習

ネット上での英語学習も広がっている。聖光学院(横浜市)や豊島岡女子学園(豊島区)など、全国約90の中学、高校などで採用されている「レアジョブ」のオンライン英会話には、中高生会員が、この1年で1.5倍になった。広報担当者は「大学入試改革の影響が大きい。中学・高校での導入も大学を抜く勢いになっている」と話す。

グリッパの授業の意義を強調する。多くの英文を読みこむことで「多読」を探り入れているSEG(新宿区)でも、春期講習の新中1クラスは、増設するほど多くの生徒が集まっている。ほかの進学塾の担当者も言う。「先取りで学ばせたがる親はこれまでも一定数いたが、大学入試改革への心配が、こ1、2年は中1、高1の入塾問い合わせが急増している。ますます家庭の経済力の差が出る」。

慣れることができるほか、4技能を問う英検などの外部検定の各種の特徴と対策まで学習できるシステムも盛り込まれているという。一方、外部検定対策に力を入れる必要はないという声も上がり始めている。国立大学協会は2月に外部検定の配点を最大でも英語全体の1割弱に抑えるという方針を示している。

メッセージ案を作成した。現状の大学入試センター試験の英語筆記は200点。仮に1割とすると20点だ。河合塾教育インベーション本部の近藤治剛本部長は「難関ほど2次試験の比率が高くなり、センター試験との

合計点も大きくなる。大学や入試形態によって異なるが東大など難関はセンター2次を合わせ、満点は2千点程度。外部検定分は全体の1%程度にしかならない」と言う。出願資格や2段階選抜への利用も想定さ

れるが、それほど高いレベルに設定しないとみる。「どんな外部検定を何のために受けるのか。英語を何のために学ぶのか。入試のためか、留学か、職業か。そこから考えた方がいい」(見聞録)

2020年度からの小学校の新学習指導要領の全面実施に向け、すでに学校現場では英語の授業が行われている。代表は「文すつ文法を考

「も学べる塾をどう探すか」も学べる塾をどう探すか「JPREP斉藤塾」(目黒区)は、塾内の授業に加え、生徒がスマートフォンやタブレット端末、パソコンなどに専用アプリを導入し、発音、リスニング、スピーキングなどを自宅で学習。スピーキング練習の動画を送信すれば、発音矯正などの指導を受けられる。駿台も、4月から全国の

「多読とネイティブの授業で多読を身につけよう!」

「多読とネイティブの授業で多読を身につけよう!」

「多読とネイティブの授業で多読を身につけよう!」

「多読とネイティブの授業で多読を身につけよう!」